

(掲載写真はいずれもウェブサイトからの借用)

1/2編より続く

さあ～！ 困った！ どうしよう！ 高速バスの時間が迫っている。「そうだ！ 英語を話せそうな人を見つけて聞けば良いんだ！」 人通りの多い通りに出て英語の話せそうな人を目を皿の様に必死に探し始めた。それには、身なりの良い人が適当だろう！

「居た！」品の良さそうなお爺さんを見つけた。ステッキをつきながらこちらに向かって来た。不安交じりに、英語で話しかけた。ビンゴだった！ 通じた！ 嬉しかった。

それによると、電柱に3番のマークが付けられているとの事。心からお礼を言って、その電柱を探そうとウロウロしたが、なかなか見つからない！ 時間が迫っている！

途方にくれていると、先程のお爺さんが杖をつきながら懸命に走って来る姿が見えた。我々を探し回っていたのだろう、息を切らしていた。そして、その電柱まで連れて行ってくれた。

間もなくバスが来た！ 乗った！ お爺さんが手を振って見送ってくれた。そのお爺さんは神様？ いや、ここではイエス様か？ の様に思えた。こういう出会いがあるから旅って痺れる程に楽しいのだ！ だから懲りずに、冒険しちゃうんだよね、つつい！

さあ～て、バスには乗ったものの、高速バスセンターでどうやったら降りられるのだろうか？ ポルトガル語会話本を開き、バターミナルの語を探した。有った！ 「ホドビアリアだ！」 運転手の脇に行き、ホドビアリア！ と3度も言った。必死だった。バス内乗客の好奇心の目が一斉に向けられたが恥ずかしさなんて、微塵も無かった！ 日本ではこんな事は絶対出来ないだろう！ 運転手が運転しながら頷いた。通じた様だ。「良かった！」 不安が薄らいだ。これなら高速バスに間に合うだろう！

まもなく、目的の72m高さの橋の上に差し掛かった。「やった～！」海面が遠く下方に見えた。

そして、見覚えのある高速バスセンターが見えて来た。

バスが止まった。運転手さんが「ホドビアリア！」と、わざわざ私の顔を見て言ってくれた。会話本で探し覚えた「ムイト オブリガード(有難う)」と言って、バスを降りた。

今日2人目の神様！ いや、イエス様に出会った素晴らしい日となった。

見知らぬ土地で受けた親切は、本当に嬉しい忘れ得ない思い出となって残っているものだ。

それから高速バスに乗り、ポルタレドンダに無事着いた事は言うまでもない。

出張紀行 2 – リオデジャネイロで出会った神様の編 完